

令和3年度 日向市立坪谷小学校 学校関係者評価書 No.1

学校経営ビジョン

坪谷の「自然・人・文化」のふれあい及び本校のよさを再認識する取組を通して、ふるさとを愛し、坪谷小の児童であることに誇りをもてる児童の育成を目指す。～あいさつ・返事・感謝の心～

重点目標	達成目標	4段階評価の平均				評価指標(アンケートの到達目標)	評価指標達成状況及び次年度の改善策等	達成度評価(自己評価)		学校運営協議会委員による評価	
		全児童自己評価		保護者等自己評価				平均3.4以上 A 平均3.0未満 C	評価	期待以下C 期待改善D	
		全児童自己評価	保護者等自己評価	職員自己評価	全体平均					コメント	コメント
個に応じた指導の充実、学ぶ意欲と学力の向上	基礎基本の確実な定着と学ぶ意欲の向上	3.5	2.8	3.5	3.3	○アンケート全体平均3.2以上 ○単元末テストで学年平均80点以上	「わかる、できる、のびる、坪谷っ子の育成」を目標に授業の工夫や補充学習に取り組むことで、学習の基礎基本が定着してきた。単元末テストでは、どの学年も平均80点以上を達成している。次年度も学習への意欲を高め学習内容の理解と定着を図るため、授業の改善を行っていく。	B	B (A A B A A A A B)	○どの学年も80点以上を達成しているため、学力向上を継続して努めてほしい。児童のあいさつは、よいと思う。 ○個々の基礎基本も高まり、さらなる工夫・改善に努めてもらいたい。 ○少人数の利点を生かしたきめ細かい指導は行われていると思う。保護者の評価が低く出ているのは、家庭での行動・態度にもっと改善を期待しているからだと思われる。読書に関する評価は、3年連続ではないだろうか。少し気になる。 ○学力向上については、常に学校と家庭との連携が重要であると思う。読書に関しては、読書月間に限らず、宿題の中に読書の日を設けるとよいのではないだろうか。そして、読んだ感想を発表させ、勧めたい本と紹介していくのもよいのではないだろうか。 ○個に応じた指導の充実を軸に、今後対策を推進していくことで、他の項目も向上すると思う。少人数だからこそできることに、力を入れるべきと思う。 ○特に個別指導等、目に見えない場でのきちんとした指導が素晴らしい。	
	児童にとって分かりやすい授業の工夫・改善	3.8	3.5	3.3	3.5	○アンケート全体平均3.2以上 ○研究授業1人年2回以上	年度初めに学級の実態に応じた授業の研究テーマ(「道徳科における指示や発問工夫」、「算数科における学習内容の精選と教具の開発」、「学ぶ楽しさを実感できる算数科指導」等)を学級担任が設定し、一人年2回の研究授業を行うことで、授業力が向上してきた。次年度も、児童の学力向上を図るために授業研究に取り組んでいく。	A			
	家庭学習の充実	3.3	2.5	3.0	2.9	○アンケート全体平均3.2以上	年度初めに家庭学習の手引きを各学年配付し、保護者との連携を図った。低学年はプリント学習を中心に学習内容の補充として取り組み、3年生以上は自学ノートに授業の復習やドリル練習など自分で課題を見つけて取り組んでいった。次年度は、家庭学習の取組の様子を振り返る時間を設けたり、取り組み方の参考になる児童の学習方法の紹介などを行って意欲を高めていく。	C			
	個に応じた指導の充実	3.8	3.6	3.3	3.6	○アンケート全体平均3.2以上	高い評価であった。週に1回の朝のチェレンジタイムでは、児童の実態や学習内容に合わせたプリント学習を中心に基礎学力の向上を図ることができた。また、パワーアップタイムでは複数職員による個別指導にも取り組んだ。次年度も補充学習の時間を確保して個別指導を充実させる。	A			
	読書環境整備、読書指導の充実	2.8	2.5	3.3	2.9	○アンケート全体平均3.2以上 ○学期目標冊数 1・2年…100冊 3・4年…50冊 5・6年…40冊	目標達成状況はやや不十分である。11月の読書月間の取り組み期間中は意欲をもって本を借りている児童が多かった。次年度は、日頃から本の紹介をしたり読書カードの利用を呼びかけたりして、児童の意欲を高めていく。また、学期目標冊数が児童の実態に合っていないので、目標冊数を下げて、児童が挑戦できる目標となるようにする。	C			
体験活動を通して豊かな心の育成	体験活動の充実	3.8	3.8	3.8	3.8	○アンケート全体平均3.2以上 ○稲作体験等の完全実施	体験活動では、寺原正さんをはじめ、地域や保護者の方々との協力もあり、さまざまな活動を実施することができた。次年度以降も、地域や保護者の方々に協力をお願いしながら、児童が充実した体験活動ができるようにしていく。	A	A (A A B B A A A B)	○地域活動や清掃活動、稲作体験活動等を、積極的にできる児童の育成に努めてほしい。 ○今後も身の回りの整理整頓等、家庭と一層の指導・連携の取組が必要である。 ○牧水顕彰活動を通して全校児童一丸となつての発表は坪谷小学校独自のものである。これからの活動は、大切にしてほしい。短歌創作を通して、自分の考え・気持ちを表現することは、将来きっと役立つ。 ○集団行動の中では、豊かな心の育成は感心するのだが、個人個人(一人一人)になった場合、声かけしたときに「あいさつ」「返事」が返ってこない児童が見受けられる。 ○概ね良好である。しかし、「時間を大切にすることができている児童の育成」については、今後の課題として、根気強く継続し、メリハリのある行動ができるようになればよい。「身の回りの整理整頓ができる児童の育成」については、家庭と学校の両輪で考えるべきである。 ○整理整頓とあいさつ等、なかなか児童に伝わらないう所もあつたが、あいさつについては、声が少しずつ大きく聞こえるようになってきた。 ○朝、車に乗っていると、すれ違いに元気よく手を振ってくれる児童がいる。とても元気をもらえる。	
	縦割り班における人間関係の醸成、リーダー性の向上	3.8	3.7	3.2	3.6	○アンケート全体平均3.2以上 ○いじめ認知3以下、年度内解決	清掃活動や稲作体験をはじめ、多くの活動を縦割り班で行うことで、自分から行動する児童が多く見られている。他学年児童との関わりが多く、上学年が下学年に教えたり相談にのったりしており、先生に情報を伝えることが多い。今後、班活動や委員会、全校話し合い等を通して、上級生の人数に関係なく自信をもって行動できる児童の育成をしていく。	A			
	牧水顕彰活動を通して、自尊感情、郷土愛の育成	3.9	3.8	3.7	3.8	○アンケート全体平均3.2以上 ○顕彰活動完全実施	毎朝の牧水短歌朗誦、朝活動の短歌創作活動及び牧水かるた練習、毎月1回実施の短歌発表会、学期毎に実施の校内牧水かるた大会等を通して、短歌に親しむことができた。また、牧水祭、牧水ヶ丘祭、牧水授賞式等における「牧水の歌」発表、定期的な牧水生家の清掃により、児童の郷土愛の高まりへとつながった。次年度も、引き続き牧水顕彰活動を実施し、牧水の母校であることに誇りをもてるようにしていく。	A			
	元気のよいあいさつのできる児童の育成	3.5	3.5	3.2	3.4	○アンケート全体平均3.2以上	「あじさい挨拶」を合言葉に、いつでもどこでも自分から明るく挨拶することを推奨してきた。登校時には、相手より先に挨拶をする児童も増えている。気持ちの良い挨拶ができていた児童を称賛したり紹介したりすることで、さらに挨拶の輪が広がるようにしていく。	A			
	指名をされたら「はい」と返事ができる児童の育成	3.5	3.1	3.0	3.2	アンケート全体平均3.2以上	概ね達成の評価であった。「○○さん。…はいと返事」を学習の合言葉にも取り入れ、授業の中でも返事が身につくように取り組んだ。次年度は、声の大きさや返事の仕方についても意識を高めていく。	B			
	感謝の気持ちを持ち「ありがとう」が言える児童の育成	3.8	3.5	2.8	3.4	○アンケート全体平均3.2以上	高い評価であった。多くの体験活動の中で保護者や地域の方々に見守られ支えられていることに気持ち感謝の気持ちを伝えることができた。また、「ありがとうございます」の言葉を素直に言える児童が増えている。引き続き、道徳科の時間をはじめ教育活動すべての中で、感謝する気持ちを育てていく。	A			
	身の回りの整理整頓ができる児童の育成	2.8	2.4	2.8	2.7	○アンケート全体平均3.2以上 ○週1回の整頓の日完全実施	目標達成状況としては、やや不十分である。次年度は、学習時の準備物や教室での片付けの仕方を身につけさせていく。また、金曜日の帰りの会に「整理整頓の時間」を設定し、自分の物を整理したり持ち帰らせたりすることをさらに徹底していく。	C			
	時間を大切にすることができる児童の育成	2.4	2.8	2.2	2.4	○アンケート全体平均3.2以上	全校で活動する時間は、事前に集合時刻を知らせることで早めに集合することができていた。しかし、朝の始業や授業の始まりについては、早めに着席して待つことが十分ではなかった。時間の大切さについて考えさせるとともに、次の活動への見直しをもたせていく。	C			

令和3年度 日向市立坪谷小学校 学校関係者評価書 No.3

【校長所見】

○ 本年度の自己評価・反省やこれまでの評価委員の方々からのご指摘・ご助言をもとに、来年度以下のような取り組みを行い、本校をさらに地域に根付いた、元気のある学校となるよう学校経営を行ってきたいと考える。

個に応じた指導の充実、学ぶ意欲と学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○次年度より全学級で本格的な複式指導が必要になるため、複式指導の研究授業を中心に実施し、個々の指導力向上に努めていく。 ○チャレンジタイムとパワーアップタイムを計画的に実施し、全職員でよりきめ細かな個別指導の徹底を図っていく。 ○CRT及び全国・みやぎきの学力調査等の結果を分析し、焦点化された指導の充実を図る。 ○PTA総会及び全校懇談において家庭学習の進め方について全家庭と共通理解を図り、学校・家庭が一体化した家庭学習を目指す。 ○家庭読書の日などを積極的に呼びかけ、家庭読書の習慣化が図れるような取組を工夫していく。
体験活動を通した豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○牧水顕彰活動をこれからも継続して積極的に取り組み、若山牧水の母校の児童であることに誇りがもてる児童を育成していく。次年度より特認区の児童数の割合も増え児童数自体も増加していく。朝の短歌朗詠など本校の伝統として受け継がれてきた活動を確実に引き継いでいく。 ○本校の特色である米作り学習を中心に、本校ならではの体験活動を継続して行っていく。地域の方々の協力なしには実施できない活動が多く、地域とともに歩む姿勢を全児童・全職員が大切にしていく。 ○学年の枠を越えた縦割り班による活動を充実させ、全児童が仲良く遊び、活動できる本校の良さ伝統を継続していく。 ○あいさつ・返事・感謝の心をもつことを学校と家庭で共有し、豊かな心の育成に努める。
食育を基礎とした健康増進・体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○次年度は、ここ2年間新型コロナの影響により実施できなかった学校保健委員会をぜひ実施し、学校と家庭が連携して正しい生活習慣の育成を図っていく。 ○栄養教諭による授業や「お弁当の日」「家庭料理の日」など本年度同様食育に関する取組を継続して充実させていく。 ○新体カテストの結果から本校の体力的課題を明らかにし、その課題を克服できるような運動を昼休みや1単位時間の体育の時間の活動の中に計画的に取り入れ、児童の体力向上を図っていく。
地域等と連携した学校運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会や牧水ヶ丘祭りはもちろん次年度については、フリー参観の機会も設定し、地域の方々により学校を身近に感じて頂けるような取組を行っていく。また、フリー参観以外の取組について学校運営協議会でも学校と地域が協力できる体制づくりについて積極的に協議していく。 ○学校だより、ホームページ、地域行事への積極的な参加を通して、学校の様子を保護者や地域の方々に報告するとともに、市内に本校が魅力ある小規模校特認校であることを継続して紹介し、今まで以上に本校への興味・関心を高めてもらえるように努める。
小中一貫教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA総会及び全校懇談を活用して、東郷学園校区のランドデザインに関して説明し、周知徹底を図っていく。 ○東郷学園との合同研修会や合同学習を積極的に進め、児童の交流を深めるとともに、ランドデザインを基盤とした共通実践事項を明確にし、目指す児童像の実現に努めていく。
教職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○本年度同様、月一回のコンプライアンスチェックを徹底し、日頃より教職員としての緊張感を保てるようにしていく。また、風通しのよい職員室経営を進め、全職員が気軽に声をかけ合うことのできる人間関係づくりに努める。 ○セクハラ・パワハラ担当職員及び担当保護者を年度の早い段階で職員・保護者・地域に周知し、職員や保護者・地域の方々が相談しやすい体制づくりを行う。